

【目次】

1.アーカイブ No.40

連載「日本労働会館物語」第37回

〈なぜ期成会はつぶされ、友愛会は生き残ったのか〉

2.04/01(水) 団体見学・JAM 北関東・書記局員会議 18 名

3. 04/13(月)～15(水) 出張講演・UA ゼンセン流通部門・第 2 期「正道塾」③
(沖縄) 18 名

4.04/17(金) 団体見学・JEC 三菱ケミカル労働組合 10 名

5.04/17(金) 団体見学・UA ゼンセン総合サービス部門・大阪ガス労働組合
OGU ネクストリーセミナー 8 名

6.04/20(月) 団体見学・JAM 北東北 12 名

7.04/22(水) 団体見学・UA ゼンセン流通部門・カスミ労連 44 名〈安部対応〉

8. 04/22(水)～24(金) 出張講演・UA ゼンセン流通部門・DU 第 3 期「枝垂桜」③
(福岡) 6 名

9.04/28(火) 団体見学・フード連合ウミオスユニオン(旧マルハニチロ) 7 名
〈安部対応〉

10.04/28(火) 団体見学・交通労連・西濃運輸労働組合 37 名〈安部対応〉

過去に連載「日本労働会館物語」を掲載していました。メールレポート「友愛労働歴史館たより」第 184 号よりアーカイブから、可能なものを抜粋し、再掲載していきます。

1. アーカイブ No.40

連載「日本労働会館物語」第37回 2012.05.02 発行の第49号に掲載

〈なぜ期成会はつぶされ、友愛会は生き残ったのか〉

前回は労働組合期成会と友愛会の類似点を挙げ、両者は血の繋がらない親戚みたいなもので、「労働組合期成会は日本労働運動の曙」、「友愛会は日本労働運動の源流」との評価を記述しました。しかし、期成会と友愛会の運命は結成後、大きく分かれます。期成会は数年で解散に追い込まれますが、友愛会は総

同盟へと発展。戦後は総同盟として復活し、全労会議・同盟を経て現在の連合へと続いています。両者を分けたものは何だったのか、それが今回のテーマです。

『評伝 鈴木文治』を著した故吉田千代氏はかつて講演後の私的懇談の中で、友愛会が結成からしばらくの間、政府の弾圧を受けることなく組織を発展させていった理由に言及し、①友愛会の名称と穏健・着実な運動、②鈴木文治の東京帝国大学法学部の人脈、③鈴木文治が所属していたユニテリアン教会の人脈、の三点を挙げていました。

本当に友愛会生き残りの理由がこの3つにあるとしたら、労働組合期成会にはこれらの点が欠けていたのでしょう。期成会をこの三点に照らしてみると、第一期成会の活動は穏健・合法でしたが、その名称が過激で政府をつよく刺激していたようです。「期成」とは「ある物事を必ず成就させようと互いに誓うこと」(広辞苑)ですから、労働組合期成会とは「労働組合を組織する会」と理解され、明治と言う時代に過激な名前であったことは明らかです。

また、創立者の人脈を比較してみると、期成会の中心人物である高野房太郎や片山潜は何れもアメリカ帰りの米国労働総同盟オルグとクリスチャンであり、それなりの人脈がいましたが、鈴木文治の東京帝国大学卒の人脈には及びません。

所属団体の人脈を見ると高野や片山らには、彼らを支える有力団体は思い浮かびません。しかし、鈴木へのバックにはユニテリアン教会があり、その人脈は多彩です。かつては福澤諭吉や金子堅太郎らがユニテリアンを支援していましたし、友愛会創立の頃は安部磯雄や海老名弾正、内ヶ崎作三郎らが鈴木文治を支えていたのです。

現在から見ると組織の名称や東大法学部卒の肩書は、大きな問題ではないかもしれませんが、しかし、労働運動非合法の時代に先進資本主義国の労働組合が友愛会を名乗っていたことに留意すべきです。また、鈴木文治の東大人脈が官僚や知識人からの支援を得るうえで有効であったことは明らかです。さらにユニテリアン教会の人脈が、知識人や経済・産業界に生きる人々の知遇を得るうえで大きな力になったことも確かです。友愛会の顧問・評議員の顔ぶれがそれを示していますし、鈴木が最初に関わった日本蓄音機商会の労働争議にも彼の東大卒の肩書やユニテリアンの人脈が役立っています。友愛会役員への委嘱状が「友愛会会長 鈴木文治」ではなく、「友愛会会長・法学士 鈴木文治」と記されていたことも傍証となるでしょう。

2. 04/01(水) 団体見学・JAM 北関東・書記局員会議 18名

JAM 北関東の書記局員会議の皆さん 18名が、講義「日本労働運動の100

年余り」を受講、期成会の結成と解散、ユニテリアンの来日から友愛会の創立、戦前戦後の運動の歴史、総同盟・同盟、連合への発展など日本労働運動の100年余の解説を70分受講し、特に同盟運動の歴史を中心に学び、友愛会、同盟の基本理念や「自由にして民主的な運動」「政治の必要性と今後の方向性」「反自民非共産の考え方」「社会体制」・社会主義と自由主義」経済体制・共産主義と資本主義」などを学習しました。まとめて鈴木文治と松岡駒吉のメッセージの重要性を学びました。受講後は、質疑応答を経て、展示室の見学、特に日本初である労働協約締結関連の東京製綱労働組合の資料(100年前)を熱心に見学。皆さんとっても熱心に受講し、細かく見学した様子でした。

3. 04/13(月)～15(水) 出張講演・UA ゼンセン流通部門・第2期「正道塾」③ (沖縄) 18名

年間4回シリーズの第三回目は、ホテル東横イン(沖縄)にて開催。第二次世界大戦の終戦から81年が経ち、唯一の本土上陸決戦の行われた跡地を訪問。社会平和を信念とする労働組合、平和産業に従事する流通産業の全員で世界平和を考え、現代から未来を思考した。その後、藤吉館長から「生産性運動三原則の変遷」「リーダーに必要な感性」を受講しました。質問も活発に行われ、さらに二晩とも知識と懇親を深めました。

4. 04/17(金) 団体見学・JEC 連合・三菱ケミカル労働組合 10名

JEC連合・三菱ケミカル労働組合の皆さん10名が、講義「日本労働運動の100年余り」を受講、期成会の結成と解散、ユニテリアンの来日から友愛会の創立、戦前戦後の運動の歴史、総同盟・同盟、連合への発展など日本労働運動の100年余の解説を60分受講し、特に同盟運動の歴史を中心に学び、友愛会、同盟の基本理念や「自由にして民主的な運動」「政治の必要性と今後の方向性」「反自民非共産の考え方」などを学習しました。まとめて鈴木文治と松岡駒吉のメッセージの重要性を学びました。

5. 04/17(金) 団体見学・UA ゼンセン総合サービス部門・大阪ガス労働組合 OGU ネクストリーセミナー 8名

UA ゼンセン・総合サービス部門大阪ガス労働組合・次のリーダーとしての育成セミナーの皆さん8名が、恒例により来館。講義「日本労働運動の100年余り」を受講、期成会の結成と解散、ユニテリアンの来日から友愛会の創立、戦前戦後の運動の歴史、総同盟・同盟、連合への発展など日本労働運動の100年余の解説を80分受講し、特に同盟運動の歴史を中心に学び、友愛会、同盟の基本理念や「自由にして民主的な運動」「政治の必要性と今後の方向性」「反自民非共産の考え方」「社会体制」・社会主義と自由主義」経済体制・共産主義と資本主義」

などを学習しました。まとめて鈴木文治と松岡駒吉のメッセージの重要性を学びました。特に日本初である労働協約締結関連の東京製網労働組合の資料(100年前)を熱心に受講し、細かく見学した様子でした。

6. 04/20(月) 団体見学・JAM 北東北 12名

JAM 北関東の書記局員会議の皆さん 18 名が、講義「日本労働運動の 100 年余り」を受講、期成会の結成と解散、ユニテリアンの来日から友愛会の創立、戦前戦後の運動の歴史、総同盟・同盟、連合への発展など日本労働運動の 100 年余の解説を 70 分受講し、特に同盟運動の歴史を中心に学び、友愛会、同盟の基本理念や「自由にして民主的な運動」「政治の必要性と今後の方向性」「反自民非共産の考え方」「社会体制」・社会主義と自由主義「経済体制・共産主義と資本主義」などを学習しました。まとめて鈴木文治と松岡駒吉のメッセージの重要性を学びました。特に日本初である労働協約締結関連の東京製網労働組合(100 年前)を熱心に受講し、細かく見学しました。

7. 04/22(水) 団体見学・UA ゼンセン流通部門・カスミ労連 44 名<安部対応>

4月22日、カスミグループ労働組合連合会拡大執行委員会(UAゼンセン)のメンバーが友愛労働歴史館を見学しました。

9階の友愛会館会議室での会合後に2グループに分かれ、交替で映像資料「友愛会から連合へ～日本労働運動の100年を視聴～安部館員の解説を聞きながら常設展示を見学。

「初めて知ることばかり」「資料の実物には見入ってしまう」「またゆっくりと見たい」などの感想が聞かれました。参加者は44人でした。

8. 04/22(水)～24(金) 出張講演・UA ゼンセン流通部門・ダイエーユニオン第3期「枝垂桜」③(福岡) 6名

年間で四回シリーズの第三回目は、福岡県福岡市市議会会館(福岡市)にて開催。福岡市議会議員の近藤里美氏(ダイエーユニオン OG)から「議会報告と政治をフィルターにした労働運動」を受講。続いて同ユニオンのOBである池田俊士氏(元ダイエーユニオン副委員長・労連事務局長)からは「労働組合役員のあるべき姿勢」、河野広宣氏(連合総合組織局総合局長・元同ユニオン第七代目委員長)からは「連合運動と存在意義」、長嶋良昭氏(現・UA ゼンセン福岡県支部次長)と花田雅祐生氏(現・連合福岡副事務局長)の両名から「私の歩み」と題し、それぞれの労働運動の考え方を講演して戴きました。その後夕食懇談会でも一層の懇親と知識を深めました。最後に「何でも Q&A と題し、あらゆる質問に答える時間」をとりました。「労使関係に一体はない。初めから協調があるものでもない。健全な対立の下に、健全な労使関係が生まれ、労使協

調が生まれる。」ことを学んだ。各講義についての疑問や不明点、質問も活発で、また日ごろの労働組合活動での疑問など幅広く探求した様子でした。

9. 04/28(火) 団体見学・フード連合ウミオスユニオン(旧マルハニチロ) 7名 〈安部対応〉

4月28日午前、ウミオスユニオン(旧マルハニチロユニオン、フード連合)のメンバー7人が友愛労働歴史館を見学しました。

映像資料「友愛会から連合へ～日本労働運動の100年」を、メモをとりながら熱心に視聴。その後、安部館員の説明で展示を見学しました。同ユニオンはこの数年、継続的に研修・見学を行っています。

10.04/28(火) 団体見学・運輸労連・西濃運輸労働組合 37名〈安部対応〉

4月28日午後、西濃運輸労働組合(交通労連)のメンバー37人が2班に分かれて友愛労働歴史館の展示を見学しました。

一行はその後都内に一泊して、翌日の代々木公園でのメーデー中央集会に参加予定であり、展示室ではとくに日本最初のメーデー集会(1920年)の説明に聞き入っていました。

-----**「人間の尊厳、進歩と発達のために」**-----

発行:友愛労働歴史館

責任者:藤吉大輔

〒105-0014 港区芝 2-20-12

友愛会館 8F

TEL03-3453-5386

Eメール yuairedokishikan@rodokaikan.org HP <http://www.yuairedokishikan.com>

-----**惟一館から 131年、友愛から 113年**-----